

南会津のうらみニュース

第37号

平成13年6月11日発行
福島県南会津農林事務所



今月のトピック

～第50回地方植樹祭が開催される～

5月25日、南会津地方緑化推進委員会と檜枝岐村緑化推進委員会の共催による第50回南会津地方植樹祭が、檜枝岐村「中土合公園」において実施されました。同村の檜枝岐小学校や只見町明和の緑の少年団を含む150名の参加者が、公園広場の周辺にオオヤマザクラ、サツキツツジの苗木を植えて、緑づくりを行いました。

式典のなかで、檜枝岐村の清水廣範さんほか6名の方が緑化功労者として表彰され、また前述の檜枝岐小学校、「緑の少年団」のある只見町明和小学校、田島町田島第二小学校には主催者から記念樹が贈られました。

さらに今回は、南会津産の木製品・おもちゃを販売している(株)高島屋（高島屋デパート）から、その売り上げの一部を南会津地方の緑、森林づくりに役立てるよう、地方緑化推進委員会に寄付金の贈呈がありました。植樹祭の経費の一部には「緑の募金」が活かされています。

(森林林業部)



すくすく育ちますように！



早急に受入体制の整備が必要です

グリーン・ツーリズムで地域の活性化を・・・

5月29日、都市と農村の交流による地域活性化を進めようと、管内町村の関係機関や民間などで組織されている南会津地方グリーン・ツーリズム推進協議会を開催しました。当協議会は平成7年度に発足以来様々な活動が続けていますが、「グリーン・ツーリズムは各地で活動が活発化していて厳しい地域間競争が予想される。早急に受入体制の整備が必要」との会長（中村南会津農林事務所長）挨拶の後、昨年度に実施したインストラクター養成研修会や、各町村、団体からの活動を報告しました。

今年度は、情報発信などのネットワーク化、インストラクター等の人材育成、未来博等でのPR、グリーン・ツーリズム啓発などの活動を大きな柱として行うことを決定しました。

また、今回から、グリーン・ツーリズムの中で輸送部門を担う野岩鉄道株式会社、会津乗合自動車株式会社が協議会に加入頂くことになり、より強力にグリーン・ツーリズムが推し進められることとなります。

(地域農林企画室)

「南会津地方農業圏連携強化推進協議会」が立ち上がる

5月29日、「南会津地方農業圏連携強化推進協議会」の設立総会が、管内各町村の農政担当課長、JA各生産部会の代表者等出席のもと開催されました。この協議会は、管内町村間の連携を強化し、地域としてまとまりがあり特色のある農業生産の展開を図るために組織されたもので、今後広域的生産、流通体制の確立や、生産者・消費者に対する啓発活動等を行っていきます。

今年は生産・流通体制の確立のための各種研修会・講習会をはじめ、地元農産物を活用した新商品の開発やPRに力を入れて活動するということが全会一致で承認され、どんな試作品が誕生するのか、今から楽しみです。

(地域農林企画室)

緑の少年団結団式

5月17日（木）只見町立明和小学校において「明和緑の少年団」結団式が行われました。

明和小学校生徒4, 5, 6年生41名が、緑を通して自然を愛し、自然を守り育てる心豊かな人間形成を目指し、地域活動、自然環境の理解、郷土愛等を誓い合い、学校と育成会の協力のもとに活発に活動して行くことをきめました。

同じ様に、5月19日（土）には、田島町立田島第二小学校体育館において、各種少年団合同結団式が行われ、「田島第二小学校緑の少年団」が結団されました。

団員は5年生15名で誓いの言葉、今年度の活動計画等学校育成会と協力して実行することを決めました。田島第二小緑の少年団は、5月24日（木）郡山市にある県林業研究センターで行われた平成13年度緑の少年団活動実績発表会において、星彩音さん（6年生）と湯田禎章君（5年生）の2名が「どんぐりの種まきから苗植付けまで」「学校周辺の緑の環境づくり」「オオムラサキの観察」など日頃の活動実績を堂々と発表し、優秀賞（県緑化推進委員会理事長賞）を受賞しました。

（森林林業部）

この人を知りたい

“とにかく森林（やま）が好きなんです”

下郷町音金 星 三千雄さん

このようなタイトルでは、山菜採りか、キノコ採り等のイメージが強いのですが、ここに紹介する星さんは、森林（やま）の手入れ、つまり良い山づくりに人一倍情熱を燃やしています。

昭和2年生まれ、現在73歳の高齢ですが、今も現役で山仕事（森林整備）を業としている数少ない一人です。若い時、短期間ですが若松営林署（現会津森林管理署）に勤めた経験から、山づくりの専門的知識が数々あり、教わるべき技術は相当なものです。

造林事業の盛んになった昭和25年頃から旭田村（現下郷町）の造林事業を手がけて優秀な成果が評価され、昭和28年からは、水源林造成、県行造林、公社造林等、地域の組織造林を推奨するなど、積極的な造成に励んできました。

また、造林事業に努める一方、昭和42年からは県営林等の巡視員（現森林保全巡視員）として33年の長期間に亘って活躍、70歳を期に辞め、その間昭和51年福島県緑化功労者表彰、平成12年の全国育樹祭では森林保全部門の知事表彰を受けております。

自分の山は3.5haと小規模ですが、適地適木を実践し2.5haにスギを造林、15年～40年生林で、どの造林地を見ても立派に手入れされており、地域では模範的存在であります。

仕事に対する責任感、熱心さと誠実な人柄が認められ、隣町の大面積森林所有者の山の管理も一手に任されております。

6歳年下の妻、嘉さんとは42年前に結婚、一男一女に恵まれ、子供達は町外に自立し、たまに帰ってくる孫との出会いを楽しみにしておられます。



星さん夫妻

星さんの目指していることは、好きで森林（やま）づくりに関わり、ここ迄やってこれた事に感謝すると共に、「これからも体力の続く限り山で働き、より多くの健全な森林を後世に引き継ぎたい」と語り、また、山の仕事に関心のある後継者が多く現れることを願っておられる。「贅沢をせず、山仕事で妻と一緒に健康で働いて行ける事が一番です」と話してくれました。

ただ、最近では心ない入山者が多くなり、ゴミの不法投棄や、山菜等の乱獲による資源の枯渇と山の荒廃、環境破壊を嘆いておりました。

私たち森林・林業に携わる者として見習うべき事が多く、全く同感させられました。

（森林林業部）

四季折々の花で心を和ませる

『なかやま花の郷公園誕生』

下郷町農林課

下郷町に新しく「なかやま花の郷公園」が誕生しました。全体の面積は3.0ヘクタールで水田の跡地と造成地で造られています。

「なかやま花の郷公園」は、清く澄んだ水の流れと山里にマッチした四季折々に咲き乱れる花々を大規模に取り入れた施設を創造し、その中で地域住民と来園者とがふれあいそして交流を深めることができる公園として、また自然を十分に魅了する公園として整備しています。

施設内を簡単に申し上げますと「なかやま池」や「つりぼり池」、水田の跡地を利用して四季折々に咲き乱れる花々に加え、本集落で豊富に採取できる山菜（山の幸）を活かした料理等の体験ができる「三彩館」、また、その中で地域に住む人々と都市に住む人々との交流を図ることができる魅力的な空間として「ふれあい広場」など、中山集落における昔ながらの美しい自然景観、田園風景も望めます。

また、「山菜と山の幸見本園」の栽培園には、南会津地方の野山にみられる山菜の自然なイメージで植栽し、それぞれに性質や食べ方などをわかりやすく表示して来園者に優しく自然を案内しています。

そして更に、昔から地域名が「桜山」と呼ばれるこの施設周辺に合わせ、北側の山腹斜面に広がる水田を利用して桜の苗木オオヤマザクラなど350本を6,000平方メートルにわたり植栽しており、隣接す



る菜の花畑との共生を展開するなど美しく過ごすことができる公園として一層楽しむことができます。

このほかに「芝桜の丘」「せせらぎ水路」「水車」なども整備されております。

このめまぐるしい社会変化の中でのひとときを、家族、団体そして一人静かに「なかやま花の郷公園」で親しんでみてはいかがでしょうか。

公園への交通は、大内宿から南方約5km、また国道121号線姫川橋から県道下郷本郷線約10kmに中山集落があり、そこから東側500メートルほど下がった大沢川沿いに整備されております。なお、お問い合わせについては下郷町役場農林課農政農地係(0241-69-1188)までご連絡下さい。

ふるさとを顧みて

百の夢と千の思い出

横浜市 猪股 植幸さん（下郷町姫川出身）

故郷とは何だろう。そこに生まれ育って20年を過ごした。そこを出てから50年。あちこちに住んだ歳月はずっと長いのに、眼を閉じると山国の様々な風景や人の顔がいつもハッキリと見えてくる。故郷はわが心でもある。

春、裏山の萌えだした樹々の中に一本の山桜が毎年咲く。ある時どうしても近づきたくて、藪をかき分け登ったら、桜は側の木より更に高い空に咲いていた。毎年家の裏の池を浚って清掃する。太った鯉が大きな盥の中に入れられ大暴れするのが面白かった。

夏、裏山の麓の路に水車があり、子守唄のようなリズムで回っていた。近くの沢に、水を伝って山奥から鬼ヤンマが飛んでくる。雌の鬼ヤンマに糸をつけて雄が出てくるとパッと放して捕まえる。籠一杯になった。水田では小止みなく蛙が鳴き、蛍が無数に飛んでいた。部屋に蚊帳を吊って電灯を消し、そ

の上に蛍をまくと、プラネタリウムのように瞬いた。夏休中は毎日大川に下りて、一日中遊んでいた。川には鮎や鮠(ハヤ)、カジカやメダカも泳いでいた。



秋、紅葉の素晴らしさ。空を埋め尽くして飛ぶ赤とんぼ。イナゴ捕りは春のワラビ狩りと共に、子供達の楽しみの天神講の資金だった。

冬、雪が深かった。道路が2mも高かった。私の少年時代、昭和一桁から日支事変頃の故郷はこんなだった。私の両親兄弟はみな身罷ってしまったが、故郷の風の中に今も生きいる。南会津からは百の夢と千の思い出を貰った。忘れ難い故郷である。

「山の幸」保護と「観光山菜園」

南会津地方の「観光山菜園」が先月から、相次いでオープンしました。

今冬の県内は記録的と言われた豪雪にみまわれ、当地方も1月は近年にない大雪となりましたが、3月以降の積雪が最高約260cmと昨年より若干少なく、例年並の積雪となりました。その影響か、当地方の山菜の芽ぶきは昨年より早くなりました。

当地方は93%が森林であり、この森林の恵みは木材生産はもとより、わらび、ゼンマイ等の山菜、きのこ等いわゆる「山の幸」も日常の食卓に上るとともに、大事な収入源として生活を支えてきました。そして、これら「山の幸」を絶やすことなく採取するためのルールが造られ受け継がれてきました。このような取扱いと豊かな自然環境とが相まって、当地方は量・質ともに他地域にはない「山の幸」の宝庫となっています。

しかし、最近は当地方が関東圏から日帰り圏となったこと、自然食やアウトドア志向等で他地域からの入山者も多くなり、その中には「山の幸はどこで、どれだけ採っても良い」等と考える人々も多く、マナーの悪が目立ち、地域の人々との間で何かとトラブルを起こすケースが多くなっています。また、「以前は十分採れたが、今では奥地に入っても採れなくなった」という話も聞きますが「山の幸」が減ってしまったのは、他地域からの入山者が増えたことももちろんですが、地域の人々にとっても「山の幸」が商品化されたことで、つい多量に採ってしまうことも要因のようです。

そこで「山の幸」の保護対策が求められる時代となりました。様々な対策の中で、山菜等「山の幸」資源の保護、増殖を行い、他地域から入山者を積極的に受け入れる「入山エリア」をつくる、いわゆる「観光山菜園」に取り組むことが有効な資源保護対策の一つになることが分かりました。

各地で「観光山菜園」の取り組みが始まりました。今年度は田島町の「藤生わらび園」が5月19日に、只見町塩沢・十島・寄岩地区の「観光わらび園」、及び南郷村の「下山山菜園」が5月20日にオープンしました。それぞれの園とも年々入園者が増えており、森林利活用の新しいケースとして定着しつつあります。

南会津地方はまだまだ山菜採りの季節です。ぜひ当地方の「観光山菜園」においで下さい。

所長 中村 紘夫



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
①県民農業講座：「家庭でできる花作りと フラワーアレンジメント第1回」	6月29日(金)	農業短期大学校
②農業機械研修：「トラクタけん引(第1回)」	7月 2日(月) ～5日(木)	農業短期大学校
③専 門 研 修：『リンドウ新品種「ふくしまかれん」の 栽培技術と販売戦略』	7月 5日(木)	農業短期大学校
④農産加工素材活用研修：「くだもの王国ふくしまの、 さわやか冷菓を作ろう」	7月 6日(金)	農業短期大学校

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 TEL 0241-62-5866
農業普及部 TEL 0241-62-5262



あて先 〒967-0004
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1
南会津農林事務所 地域農林企画室
TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256
E-mail m-nourin@akina.ne.jp
ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真

尾瀬沼(檜枝岐村)

水芭蕉と新緑がとてもきれいです



古紙配合率50%再生紙を使用しています

この広報紙は古紙配合率50%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。

